



続日本100名城

戦国最初の天下人の城

芥川山城跡



三好長慶



松永久秀

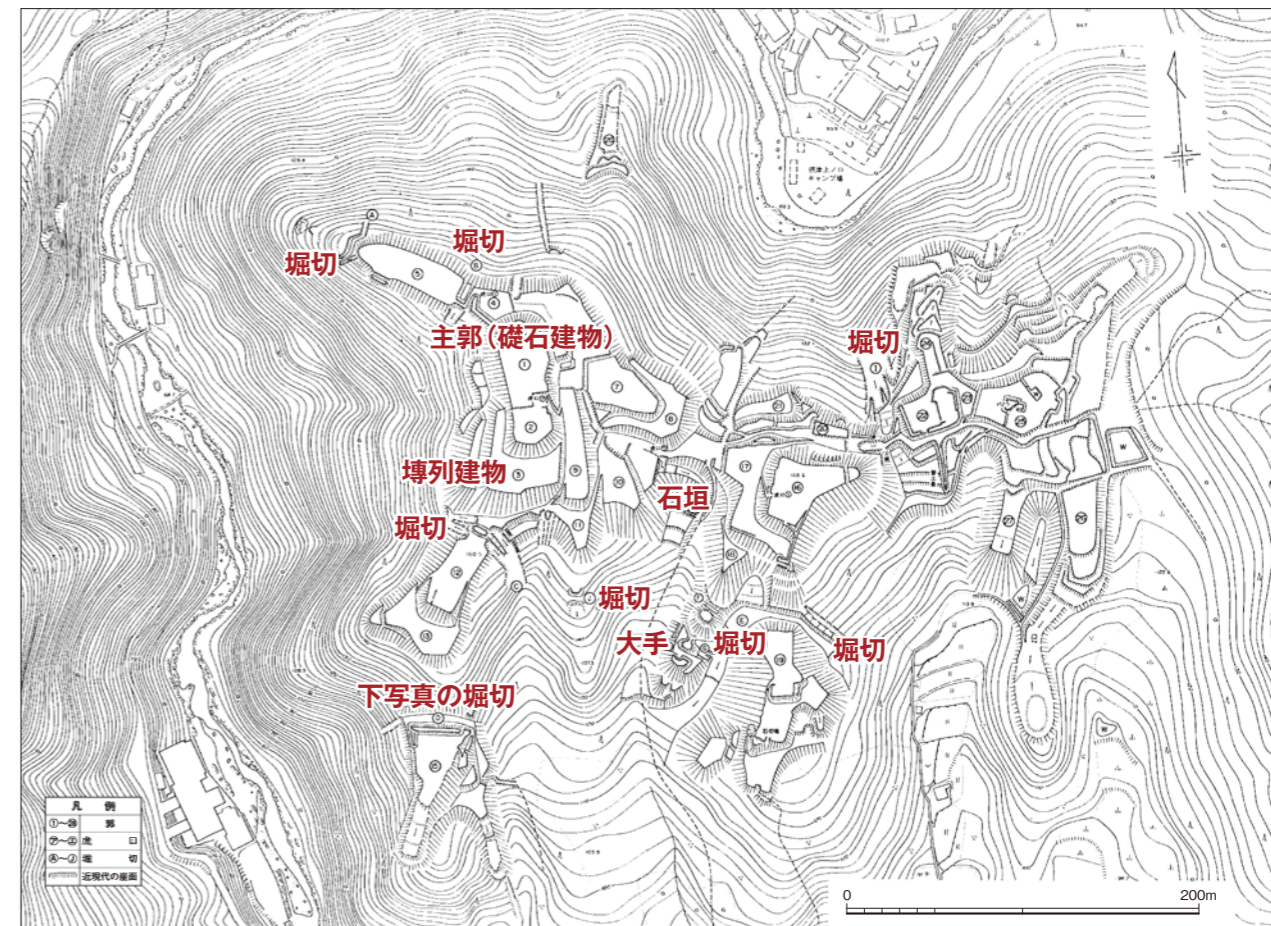


織田信長





芥川山城想像鳥瞰図(作画：山本尊敏)



芥川山城跡の縄張り図

① 摂津国最大の山城

標高182.69mの三好山を中心とする城跡は、東西約500m×南北約400mに及び、摂津国最大の規模を誇ります。山裾の三方は芥川が流れる摂津峡の深い峡谷で、敵が攻めにくい天然の城塞でした。永正13年(1516)までに摂津を東ねる守護の細川高国が完成させ、築城には昼夜を問わず300~500人が働きました。

④ 城郭の遺構が良く残る

戦国時代の城郭には高い石垣や水堀はなく、山の尾根を断ち切った堀切や土塁(土手)を用いて敵を防ぎました。芥川山城にはこれらの遺構が良く残り、山頂の主郭(本丸)を中心に人々が生活した曲輪(くるわ)と呼ぶ広場が確認できます。大手と伝わる谷筋には石垣が築かれ、城主の力を登城者に見せる役割がありました。

② 天下人 三好長慶の居城

高国との戦いに勝利した細川晴元が次の城主となりましたが、天文18年(1549)に家臣の三好長慶によって追放されました。長慶は將軍足利義輝も京都から追い出し、実力で天下(当時の畿内)の支配を開始します。そして天文22年には晴元方から奪取した芥川山城へ入り、城は天下人の居城として黄金期を迎えます。

⑤ 人々が訪れる天下の政庁

長慶による天下の政治は芥川山城で行われ、文芸の場ともなりました。武家に加えて長慶の裁きを求める村人や公家、また連歌師や儒学者など多くの人びとが登城しています。永禄3年(1560)に長慶は城を子の義興に譲りますが、その後も芥川山城は三好氏による天下の政庁として機能し続けました。

③ 高槻出身の松永久秀も居住

重臣松永久秀をはじめ、城内には長慶を支える多くの家臣が屋敷を構え、居住しました。芥川山城の発掘調査では立派な建物跡が見つかっており、多くの生活道具が出土しています。なお、古くから久秀は高槻の東五百住(ひがしよすみ)出身だと伝えられ、近年の歴史研究によってその可能性がさらに高まってきました。

⑥ 織田信長が天下を引き継ぐ

永禄11年(1568)9月、足利義昭を擁する織田信長は三好氏の勢力を追って芥川山城へ入城し、面会を求める多くの武将や商人、さらには天皇の勅使を迎えました。そして新たな天下支配の枠組みを示した後、念願の上洛を果たします。この信長らの行動には、三好氏の天下を引き継ぐ意味があったとも考えられます。



■堀切

この堀切は向かって左側が人の背丈を超える土塁になっており、より堀切を深くし、敵の侵入を防ごうとする工夫がなされています。芥川山城では要所で堀切が確認され、堅い守りを実現していたことがわかります。



■石垣

大手の谷筋に築かれた石垣です。大振りの自然石と粗割石を用い、間に小石を詰めて目地が通るように積まれています。中央が崩れていますが、本来は幅12mの谷筋を塞いでいました。現在も2m以上の高さが残ります。



■建物の跡

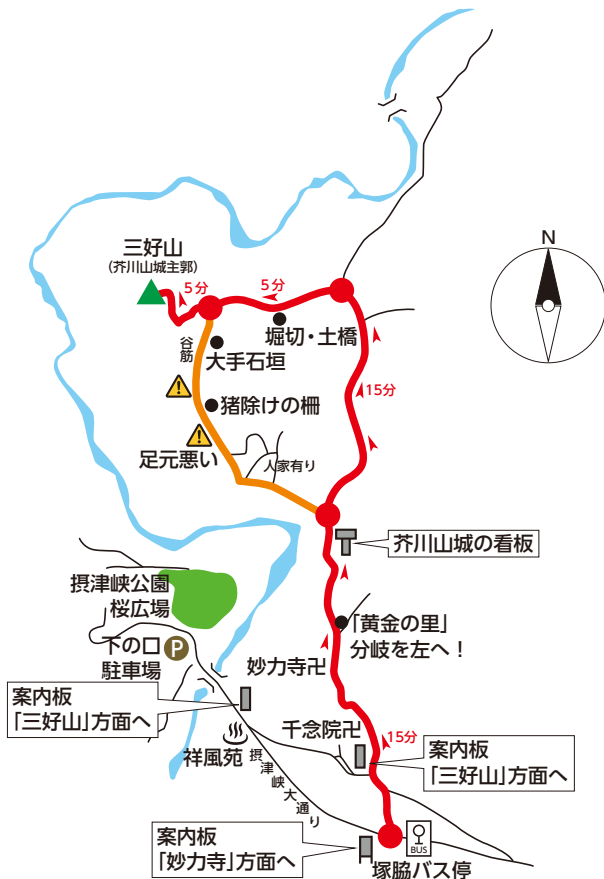
平成5年の主郭(本丸)の発掘調査では建物の柱を支える多くの基礎石が見つかり、本格的な御殿建築だったと推定されています。令和2年の調査では、一段下の曲輪で櫓の可能性を持つ塙(せん)列建物が確認されました。

| 年代 | 主な出来事 |
|-------------|--|
| 永正13年(1516) | 年明けに連歌師宗長が能勢頼則の連歌会で「新城」を祝う連歌を詠んだ。この城が細川高国の築城による芥川山城であった。 |
| 天文2年(1533) | これ以降、天文5年まで細川晴元が長期在城し、京都からも公家の関係者が登城する。 |
| 天文22年(1553) | 三好長慶が東の帯仕山に陣を構え、芥川孫十郎が籠る城を攻撃。降伏させた後、自らの居城として入城した。 |
| 天文23年(1554) | 山城国乙訓郡の上植野村(向日市)と今里村(長岡京市)で水争いが起こり、関係者が登城して長慶の裁きを受けた。 |
| 弘治2年(1556) | 正月に火災が起き、長慶の子・義興と松永久秀の屋敷が燃える。この後、久秀は京都の醍醐寺から建物を移築した。 |
| 弘治3年(1557) | 久秀の招きで清原枝賢が儒学を講じる。長慶が連歌師宗養や弟・安宅冬康らと連歌会を催す。 |
| 永禄2年(1559) | 長慶が市内の郡家村と真上村の水争いを裁く。 |
| 永禄3年(1560) | 長慶が飯盛城(四條畷市・大東市)へ移り、家督を継いだ義興が城主となる。 |
| 永禄6年(1563) | 義興が城内で死去。 |
| 永禄11年(1568) | 足利義昭と織田信長が入城。後に義昭家臣の和田惟政が城主となり、家臣の高山飛騨守(高山右近の父)に預ける。 |
| 永禄12年(1569) | 宣教師ルイス・フロイスが登城する。和田惟政が高槻城へと居城を移す。 |

芥川山城関連年表



芥川山城を上から見た赤色立体地図



■見学に際しての注意事項

- ① 駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。
- ② 付近及び山城跡一带にトイレはございません。
- ③ 城跡は私有地です。地元の方のご迷惑となる行為は慎んでください。ゴミは各自でお持ち帰りください。
- ④ 地下には戦国時代の城郭遺構が埋まっています。地面を掘り起こしたり、遺物の持ち帰りは厳に慎んでください。
- ⑤ 城跡は整備された史跡ではありません。木が生い茂り、虫や蛇もいます。危険な場所がありますので、ご注意ください。
- ⑥ 十分な下調べの上、見学は各自の責任でお願いします。

■交通案内

J R 高槻駅(北のりば)から、高槻市営バス(塚脇)〈下の口〉行きで、「塚脇」下車。バス停から徒歩約30分(坂道、途中から未舗装)

続日本100名城 戦国最初の天下人の城 芥川山城跡

発行/高槻市立しろあと歴史館 〒569-0075 大阪府高槻市内町1番7号
TEL 072-673-3987 FAX 072-673-3984

印刷/有限会社ニュービット

発行日/令和3年3月31日